これまでの活動（3月～5月）

3月　地元鴻巣１区役員会でのあいさつ

3月　令和３年第１回議会定例会一般質問後、議員インターンシップ生と

3月　スケートパーク開園式。益子議員、坂本議員と

3月　笠間市ドッジボールスポーツ少年団卒団式。
かわいいドッジボーラーと

3月　「かさま ラ ガストロノミー」笠間特別観光大使（ホテルメトロポリタンエドモンド東京総料理長）の岩崎シェフと

3月　法政大学卒業式（大学院修了式）上山研究室の上山肇教授、同期の２人と

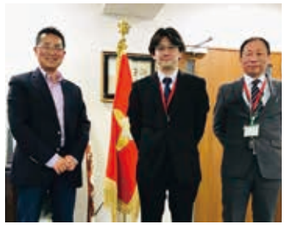
3月31日　笠間市職員の同級生が定年退職。三次課長、石井副参事、長い間お疲れ様でした。

4月　笠間市地域医療センターへ徒歩で献血に。献血81回目、目標は100回！

4月　茨城放送主催の「いばチャリinかさま」に参加。笠間市内約40kmをサイクリング！

4月　笠間ふれあい大学第30回講座　3年半前に笠間に移住した（株）TANGE FILM代表の森下征治さんと対談

4月　弟が校長を務める小瀬高校へ訪問


4月　息子２人がお世話になって熱血先生（48歳）が校長先生に。岩瀬日大高校、吉田校長（中央）、小泉副校長と

4月　地球を守ろう！活動で那珂市の大泉京子さんが来庁。坂本議員と話しを伺いました。

5月　那珂市の小泉周司議員と大洗町へ。大洗町國井豊町長から大洗町の政策などを伺いました。

5月　笠間ふれあい大学第32回講座。修士論文の研究内容を発表。

5月　こうのす道路里親の会の道路清掃作業、JT友部工場が協力。お手伝いいただいた３人の職員の方と

内桶克之（うちおけかつゆき）プロフィール

人生の原点！
大学時代の毎朝仕事

生年月日	昭和35年（1960年）10月1日生まれ（60歳）
学　歴	法政大学大学院修了（政策学修士）、日本大学農獣医学部卒業 ※勤労学生：朝３時に起床し、新聞・雑誌を私鉄の駅の売店に運ぶ
現　在	笠間市議会建設土木委員長、議会運営委員会副委員長、広報委員 友部ロータリークラブ青少年奉仕委員会委員長 ともべ幼稚園理事、NPO法人グラウンドワーク笠間顧問 日本ゴルフツアー選手権森ビルカップ大会役員 笠間市ドッジボール協会理事長、茨城県ドッジボール協会顧問
趣　味	ラジオ体操、体を動かすこと、スポーツ観戦、まちづくり活動、 笠間焼を使おう贈ろう運動、Facebookでの情報発信など
信　条	「他人と過去は変えられないが自分と未来は変えられる」 「一途一心」

Facebook Instagram
にて活動更新中！

修士論文はこちら

法政大学大学院修了式
群優秀論文賞を受賞

内桶克之
オフィシャルHP

HP http://uchioke.com
katsuyuki.uchioke
okeok19601001

市民とともに、地域とともに　vol.11

ともに歩む

令和３年６月発行
発　行：内桶克之
連絡先：〒309-1706
笠間市鴻巣 593
Tel :0296-77-2524
Mob:090-1811-0098
Fax :0296-77-2524

皆さん、こんにちは、内桶克之です。

こうのす道路里親の会、５月16日の清掃事業に参加された方々。JT友部工場のご協力をいただきました。

日頃から応援をいただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の市内の状況は、5月に入り新規陽性者が20日まで28名確認されました。笠間市も感染拡大市町村に追加され、6月2日まで不要不急の外出、飲食店への午後8時までの短縮、イベント等の開催制限などを受けています。ワクチン接種は、5月10日から65歳以上の方の予約を開始して、約2,400人が完了し、5月23日から接種が始まりました。今回の予約の課題を踏まえ、システムサーバーの強化などの改修を行い、次回以降の予約に対応します。予約のキャンセルが発生した場合は、ワクチン接種に従事する看護師等、高齢者施設等の未接種の従事者、保育士の順に柔軟に対応するとしています。ワクチンは順次納入予定なので、感染防止をしっかりしながら、焦らずに対応しましょう。

地域や身の回りでご相談事がありましたら、ご相談ください。よろしくお願いします。

3月１日から18日まで令和３年第１回議会定例会が開催され、令和３年度予算などを可決しました。議案等審議は56件で、うち議案は47件です。議案については、政治倫理審査会委員の選任（５人）の同意、教育委員会教育長の任命に同意、景観条例、いじめ防止対策推進条例、介護保険条例の一部改正など16の一部を改正する条例、一般会計をはじめとする９つの補正予算、令和３年度一般会計（324億５千万円）、５つの特別会計、４つの企業会計を合わせた予算総額564億16,861千円の予算を可決しました。予算審議では予算特別委員会を開催され、ITC教育の支援体制や自転車ネットワークの整備、農政での補助事業の内容、学校跡地等の企業等の参入（公民連携）、保育所の保育士の確保などの質疑を行いました。

一般質問は、下記の４項目を質問しました。

❶ 企業及び宿泊施設の誘致について

茨城中央工業団地笠間地区の進捗と企業誘致、さらに宿泊施設の誘致について質問しました。

❷ 職員の働き方とデジタルトランスフォーメーションについて

コロナ禍での働き方、デジタルトランスフォーメーションの推進内容について質問しました。

❸ 公民連携と自主財源の確保について

公民連携では多目的広場の状況、自主財源の確保では企業版ふるさと納税の検討状況について質問しました。

❹ イノシシ捕獲後の放射性物質検査と加工施設について

イノシシによる農業被害の防止策として、電気柵等の設置補助や地域で組織した団体に対して、わなの設置や捕獲等の支援を実施していますが、捕獲後の前頭検査と処理加工施設等について質問しました。

1．企業及び宿泊施設の誘致

問　この５年間の企業誘致の実績、市の支援を受けた企業数と総金額は

答　市長公室長　５千㎡以上の規模で、市内で操業開始または準備中の企業は、株式会社ＭｏｎｏｔａＲＯや株式会社トンボなど計１６社（茨城中央工業団地内へは４社）。１６社のうち、企業立地推進事業補助金の補助を受けたのは３社で、金額は約１０億４,６８４万３,０００円。

問　誘致した企業１６社の雇用はどの程度なのか

答　市長公室長　新たに進出した企業で正規、非正規合わせて約５７０名の雇用があり、市内からの雇用は約３７０名である。茨城中央工業団地笠間地区内では、約９０名の雇用があり、うち３５名が市内雇用者となっている。

問　茨城中央工業団地笠間地区の道路や配水等の整備状況は

答　市長公室長　枝折川及び南側の整備がほぼ完了し、３月末に流通センター北線の一部などの供用が開始される。今後は枝折川に架かる橋梁工事や北側の造成整備、区画道路などの関連インフラ整備を実施する予定。橋梁工事は令和３年度から実施し、関連する区画道路の工事と合わせ２～３年ほどかかる。

問　工業団地の枝折川から北側の整備計画は

答　市長公室長　枝折川から北側は約２９ヘクタールの敷地があり、都市計画道路の北線と市道２９８号線及び敷地中央部で南北に延びる団地内の区画道路で分割され、大きく３区画で分譲する計画。

問　工業団地南側の外周路線と仁古田地区側の集落道の整備計画は

答　市長公室長　工業団地内区画道路と集落道の接続は、既存の機能を損なわないよう工業団地の整備と併せて実施する計画となっている。企業の立地スケジュールの調整で、車道部の埋設管整備を優先して実施している。集落道の接続・整備は、歩道や団地周辺の緑地部の整備とともに実施する予定。

問　宿泊施設誘致の実施状況は

答　市長公室長　企業誘致が進み、ビジネス関連や潜在的な観光関連の宿泊需要があり、宿泊施設誘致の方針を定め、取り組んでいる。最大２億円の補助制度を活用し、民間企業との誘致交渉を進めている。

６事業所を集約し移転したキャノンモールド（株）本社・友部事業所

2．職員の働き方とデジタルトランスフォーメーション

問　ウィズコロナにおける新しい働き方の考えは

答　市長公室長　現場作業や窓口業務などテレワークに向かない業務もあるが、感染症終息後も新しい働き方としてテレワークや時差勤務などを組み合わせ、妊婦や育児、介護などの事情を抱える職員を優先し、生産性向上、長時間労働の是正を目的に柔軟な働き方ができるよう推進する。

問　テレワークの実施者数、優先的に実施した職員。そのための環境整備は

答　秘書課長　在宅でのテレワークは、４月からの実施者は延べ８７名。総務や企画など管理部門はテレワークをしやすい環境にある。しかし、感染リスクが高い妊婦や育児中などの職員を優先し、在宅でのテレワークを実施している。テレワークやウェブ会議などに使用するパソコンは１００台準備している。

問　Zoom会議などウェブ会議の対応状況は

答　市長公室長　各種会議、特に県外官庁や企業、さらに大学と連携した講演会など、ウェブ形式が非常に多くなってきている。今後も研修や会議で増加が見込まれ、１００台のパソコンを活用する。また、出張等でもパソコンで決裁ができ、市の情報などと会議資料を平行して見られるといった利便性もある。

問　多様なライフスタイルに対応した行政サービス、効率化を追求した行政運営の実施状況と今後の取り組みは

答　総務部長　利用者が時と場所を選ばずに行政サービスを受けられる利便性と職員が多様な働き方を選べる行政の実現に向け、行政手続のオンライン化、移住や子育て、福祉、健康に関する相談のオンライン化、テレワークの推進などを進めてきた。今後は、全入札手続の電子入札の実施、電子契約の導入、窓口へのキャッシュ決済の導入など、さらなる行政デジタル化に努める。効率化を追求した行政運営では、分掌事務への電子決裁の導入、システムに自動入力などを行うＲＰＡ、紙の申請書からデータに変換するＡＩ－ＯＣＲの導入などを進めた。今後は、タブレット等を活用した農業委員会、介護認定審査会のペーパーレス化、ＲＰＡの導入業務の拡大、生活保護業務のシステム化など、業務のさらなる効率化を進める。

問　デジタル化実現のための環境整備状況は

答　総務部長　ペーパーレス会議や事業者等とのウェブ会議用に部課長へタブレットを８５台配置し、貸出し用ノートパソコンを用意した。今後は、無線ＬＡＮ対応インターネット用パソコンを各課に１台、計７０台を配置し、より多くの職員が容易にペーパーレス会議やウェブ会議を実施できるよう整備する。テレワーク用にはパソコンを３０台用意した。

3．公民連携と自主財源の確保

問　多目的広場の整備状況は。また、公民連携の検討は

答　市長公室長　第１期工事の完成したところから一部供用開始できるよう、市民から設置要望のある遊具や休憩施設などを整備する。民間主導による公共サービスの提供は、民間企業への聞き取りや事業提供案を受けながら検討し、推進するが、課題の汚水の処理方法と併せて検討する。

問　企業版ふるさと納税の検討状況は

答　市長公室長　令和２年度の税制改正により寄附企業に対する税の軽減効果が約９割に拡大された。令和２年３月３１日に地域再生計画の認定を受けたことで、笠間市創生総合戦略に位置づけられた全事業が企業版ふるさと納税の対策になった。昨年１０月には、新たに企業版ふるさと納税（人材派遣型）が創設され、今年度は主にオンラインながら、縁のある企業の紹介によるマッチング機会への参加や個別企業との協議など、随時協議を行う企業の業務内容を勘案しながら、個別の事業紹介を行っている。制度創設以降は人材派遣についても活用の可能性の投げかけなどを行うが、寄附の実現には至ってない。現在実施中の栗の生産拡大事業については、次年度以降も前向きな意向をいただいている。

4．イノシシ捕獲後の放射性物質検査と加工施設

問　令和元年度、２年度２月末までの捕獲頭数と現在の処理方法は

答　産業経済部長　令和元年度１,１８４頭、本年度２月末時点で１,０２１頭。成獣は解体し、幼獣は焼却施設へ搬入して焼却処分する。搬出が難しい山中での捕獲の場合、地権者同意の上、埋設処分をすることもあるが、できる限り焼却処分している。

問　全頭検査とイノシシ肉の処理加工施設の考え方は

答　山口市長　イノシシの対策、特に捕獲後の処理については毎年笠間市内でも千頭以上が捕獲され、焼却や埋設処理されている。県はジビエ料理を推進していくということだが、これは笠間市だけの課題ではなく、全県下の課題であり、加工場を造るのであれば、県が主体となって市町村も協力する形が基本だと思う。一番は加工した後の出口が課題で、この点をどう確保するのか。出口を含め、県が主導的に実施していくことが一つの対策である思う。

道の駅ばとう　イノシシ丼と八溝ししまるバーガー